

104 第4代総長 ^{まつさか さいち} 松坂佐一 — 名大をひきいた人びと⑨ —

第4代総長の松坂佐一は、1898（明治31）年、岡山県都窪郡茶屋町（現在の倉敷市）に生まれました。愛知県豊橋市の八町尋常小学校を卒業後上京し、東京府立第一中学校から第一高等学校へと進み、1923（大正12）年に東京帝国大学法学部独逸法律学科を卒業しました。

一度は第一銀行（のちの第一勧業銀行、現在のみずほ銀行）に就職しますが、1927（昭和2）年には京城帝国大学法文学部助教授（のち教授）に転じました。専門は民法です。京城とは現在の韓国ソウルですが、当時の朝鮮半島は日本の朝鮮総督府の統治下にありました。日本の敗戦により本土に引き揚げたのちの1946年、敗戦前は中国上海にあった東亜同文書院大学を引き継いで、豊橋市に設立されたばかりの愛知大学から教授として迎えられました。

そして松坂は、1948年の名古屋大学法経学部創設に深く関わります。これも愛大教授の戸沢鉄彦とともに新学部創設委員会の外部委員となり、この2人が法律学科・政治学

科の設置準備を実質的に担ったのです。設置当初、松坂と戸沢は非常勤講師でしたが、49年4月には正式に法経学部（50年度から法学部）教授に就任しました。

その後松坂は、附属図書館長、法学部長、教養部長などを歴任、そして1959年7月、法学部の東山移転とほぼ同時に総長となりました。名大創立70年の歴史の中で、唯一の文系学部出身の総長です。弁護士の資格を持ち、民間企業での勤務経験がある経歴にも特徴があります。

総長在任の4年間における事績は、プラズマ研究所の附置（61年）、医学部附属病院分院の第一次移転（61年）、東山への学生会館建設（62年）、文学部の名城から東山への移転（63年）など多くあります。とくに就任当初の1年間は、安保闘争の激化や伊勢湾台風の襲来、豊田講堂の竣工、第1回名大祭の開催など、名大史の大きな出来事が集中しています。



1	2	3
5	4	

- 1 松坂佐一第4代総長（1898—2000）。
- 2 豊橋市政財界の重鎮たちと愛知大学創立時のスタッフ（愛知大学東亜同文書院大学記念センター提供／神野信郎氏撮影）。右から2番目が松坂教授、3番目が四方博教授。四方は、愛大から名大法経学部経済学科へ移り、第2代経済学部長となった。
- 3 1953年当時の法学部教官。前列左から4番目が松坂教授、その右が戸沢鉄彦教授。背景は名城キャンパスの法学部校舎（元陸軍歩兵第六連隊兵舎）。
- 4 豊田講堂完成式（1960年5月）での万歳三唱。中央で音頭をとっているのが桑原幹根愛知県知事、それから右へ石田退三トヨタ自動車社長、勝沼精蔵前総長、松坂総長。
- 5 1988年の法学部創立40周年記念パーティーで挨拶する松坂名誉教授（当時89歳、『名古屋大学法学部創立60周年記念写真集』より）。総長退任後は、弁護士として活動するとともに、NHK経営委員会委員長、名古屋証券取引所公益理事などを務め、100歳をこえる長寿を全うした。



名古屋大学基金

名古屋大学基金へのご寄附をお願い申し上げます。この基金は、平成18年3月に創設され、学生育英事業、教育・研究環境整備事業、国際交流事業などの充実のために活用されます。ご寄附のお申し込み、お問い合わせは総務課（基金推進室）あて（電話 052-789-4993, 2011、Eメール kikin@post.jimu.nagoya-u.ac.jp）をお願いいたします。